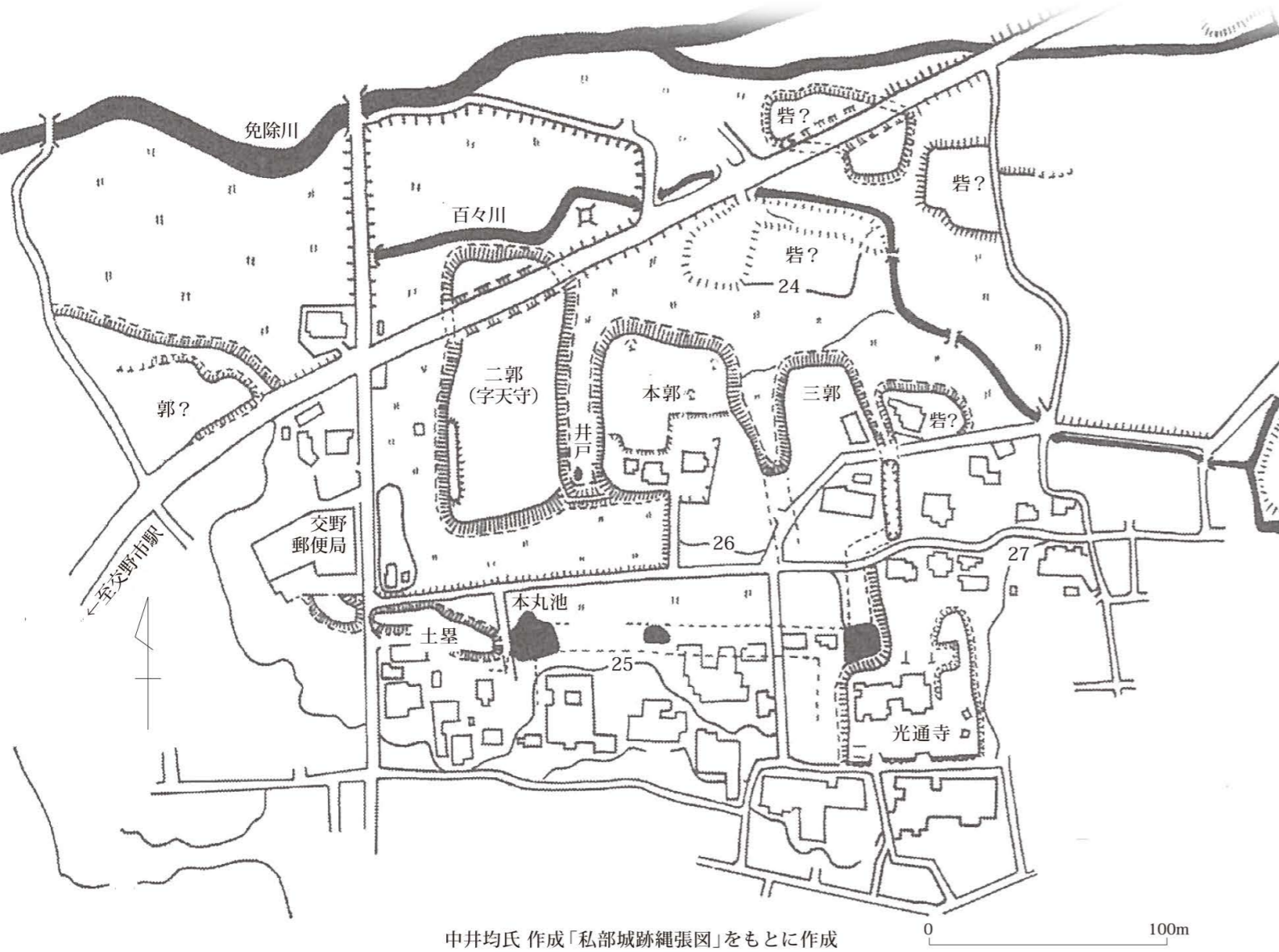


いま、甦る!!

私部城



中井均氏 作成「私部城跡縄張図」をもとに作成



交野市教育委員会

私部城跡・安見氏年表

永禄2年(1559)	12月、安見右近が検断のために家来を枚方寺内に入部させる(私心記)。
永禄3年(1560)	正月、安見与助と神尾が枚方寺内の実従と対面する(私心記)。
永禄5年(1561)	枚方寺内の宗ト・松雲・与左衛門が交野の星田で安見右近と公事の交渉をする(私心記)。
永禄8年(1565)	10月24日、右近が畠山氏配下として大和で合戦に参加(多聞院日記)。 この頃、遊佐信教から松永久秀へ右近が預けられたとみられる(遊佐信教書状)。
永禄10年(1567)	9月10日、奈良市中の合戦で右近が負傷する(多聞院日記)。
永禄11年(1568)	1月、松永久秀が津田城に入る(細川両家記)。 南山城から北河内の交通をおさえた久秀の配下として安見右近が私部城を築いた可能性有。
永禄12年(1569)	2月、安見右近が領知する星田より日御供米が未納のため、石清水八幡宮が幕府に訴えをおこす(石清水文書)。
元亀元年(1570)	10月20日、三好三人衆に対抗した織田方の勢力として、「片野(交野城)の安見右近」が記される(信長公記)。 この頃、安見右近が佐久間信盛の娘と婚姻したとみられる(兼見卿記より推定)。
元亀2年(1571)	5月10日、安見右近が松永久秀に呼び出され、奈良の西新屋で切腹に追い込まれる。 この時、不退寺で安見の家来と松永方の菊川衆が交戦する。同日に松永親子が私部城を攻めるため出陣する(二条宴乗記)。 5月12日、私部城が松永久秀・久通に攻められるが持ちこたえる(多聞院日記、二条宴乗記)。

元亀2年(1571)	5月27日、松永親子が多聞城へ帰城する(多聞院日記)。 6月6日ごろ、交野の相城に松永軍の一部はとどまっている(信貴山文書)。
元亀3年(1572)	4月16日、織田方の佐久間信盛・柴田勝家らの援軍が私部の松永軍を包囲する(兼見卿記)。 4月17日、松永軍の入る私部の相城の1つが織田軍に落とされる(年代記抄節)。 4月27日、私部城が堅固であるため、三好義継が安宅神五郎に援軍を求め(土佐国書簡集竹頭)。 4月28日、松永軍の津田の付城が陥落する(多聞院日記)。
天正3年(1575)	織田信長が河内を平定する。私部城廃城の可能性あり。
天正4年(1576)	新七郎の領地である星田から日御供米がおさめられないため、石清水八幡宮が訴えをおこす(石清水文書)。
天正6年(1578)	10月1日、織田信長が堺から京都への帰り道に「安見新七郎所」(私部城か)で休息をとる(信長公記)。
天正7年(1579)	安見新七郎が枚方の鑄物師に諸役を賦課していることがわかる(真継家文書)。
天正7年~天正8年(1579~1580)	右近の後室が家中を鎮めるため吉田兼和に祈祷を依頼。10歳になる息子がいる(兼見卿記)。
天正9年(1581)	2月5日、信長の京都馬揃えにおける取次者として安見新七郎の名前が見られる(禁裏御倉職立入家文書)。
天正10年(1582)	私部は豊臣蔵入地とされる(出米目録)。 星田が豊臣家臣の市橋長利の領地となり、石清水八幡宮に日御供米を収める(石清水文書)。



交野市指定文化財『私部城跡』
■所在地：大阪府交野市私部 6-13-11
■アクセス：京阪交野線「交野市」駅を東へ徒歩約 20 分
■お車で越しの方へ
私部城跡周辺には専用駐車場はございません。
交野市駅周辺の駐車場にて停めてお越しください。

「いま、甦る!!私部城」2018年(平成30)11月17日 発行

■編集・発行：交野市教育委員会 <https://www.city.katano.osaka.jp/soshiki/syougaiakusyu/bunkazai/>
■デザイン・イラスト：山本 ソンビ(山本書院グラフィックス)